

令和6年度第2回江東区区民協働推進会議 議事概要

日 時 令和7年1月28日(火) 午後2時55分～午後4時15分

場 所 江東区文化センター6階 第3会議室

出席者 江東区区民協働推進会議委員

次 第

I 協働事業提案制度 令和6年度実施事業 中間報告会

II 区民協働推進会議

1 開会

2 中間報告会委員意見交換

3 議題

(1) 令和7年度協働事業提案制度概要(案)について

(2) 令和7年度協働事業提案制度における「区から提起する課題」について

(3) 区民協働推進会議の公開のあり方について

(4) その他

4 報告事項

(1) 令和6年度ステップアップ事業補助金の状況について

5 閉会

傍聴者 なし

1 開会

2 中間報告会委員意見交換

(委員意見)

- ・ 協働事業実施を通じて、団体がより自立していくパターンや行政と共に活動していくパターンなど、さまざまな団体の活動パターンを見つけていくことが今後重要である。
- ・ 参加者アンケートについて、1年目と同じ質問をして経年変化をとったり、2年目用に新たな質問をして事業成果を測ったり、担当課と意見交換して決めたほうがよい。ただし、参加者には、催しに充実して参加していただくことが重要なので、アンケートへの回答が、時間的にも負担になりすぎないように、留意する必要がある。
- ・ 新型コロナウイルス感染症が流行ってから、子どもを外遊びに行かせることが少なくなってきたように思う。子育て中の親はたくさんの情報を欲してい

るが、それを選ぶのに非常に苦労しているように見受けられる。今回のように江東区マークがついている事業だと安心して参加する親も多いのではないか。

- ・ 自身の子育て時代にこのような事業があればよかったと思った。
- ・ 事業の持続性が大事であると思う。この事業を継続していく上で必要なものは何か考えたとき、この事業に関しては完全参加無料ということでやっているが、今後継続していく際にどのようなようになっていくかが課題である。
- ・ どう自然で遊ばせていいのかわからない世代が親になっているというところもあると思ったので、子供を外ではこうやって遊ばせるのだなという気づきを与えるという意味でも非常にいい取り組みだと思った。
- ・ 提案時点では補助金を獲得してずっと常設広場をやりたいという考えを持っていたように記憶しているが、今後子供と親に遊び方を教えていくというような役割を担っていくのか、あるいは遊び場として常設の広場的な役割を担っていくのか、どのような方向に事業が進んでいくのか興味がある。
- ・ 団体が公園にテントを立てる際には占用許可が必要となるため、協働事業終了後、団体でこの事業を継続する場合は今のやり方ではできず、区の委託事業として続けるという方法しかないのではないか。
- ・ 他団体でも同じだが、メンバー確保なども含め、継続性ということがやはり難しいようである。また費用面でも参加者から費用を取ると営業活動になり、公園が使えなくなるため、そういう意味からするとやはりボランティアで続けていかなければならないことから継続はハードルが高い実態がある。
- ・ とても考えて実施されている事業だと感じた一方で、やはり継続性の部分がどのようなか心配な部分がある。いい取り組みなので、何かうまく続ける方法がないのかと思うが、特に人手のところはネックになりやすい。金銭面だけでなく、確保の面も相当難しく、どうするのがいいのか悩ましいところである。
- ・ 今後、団体自体が事業を継続する場合、有償のプログラムと、今回の協働事業プログラムとの仕分けなどどのようにしていくかが課題かと思った。できれば子供に対するプログラム提供は、お金がある人は参加できるのではなく、誰でもができるような事業にしていくというのがベストだと思うため、そういった意味でも、区のサポートでやっていくのが一番かと思った。
- ・ 指定管理下の公園の場合、指定管理の一部として業務委託をしてやっていくという継続の方法もあるのではないか。
- ・ 新しく改修工事をした公園を利用してもらうため、地域の方がワークショップなどを行ってどういう公園にしたいか考えていく中で、やはり子供へ向けたプレーパークや今回の事業のような自然体験が必須になると思うので、今回のようなプログラムがあることを今後提案できるとよいと思った。
- ・ 継続性は解決すべき課題であるが、このような期限型の助成でいろいろチャレ

ンジができて、可能性が増えていくと思う。

- ・ 役所の委託事業になりやすい事業ではないかもしれないが、指定管理の管理団体になってプログラム化していくとか、あるいは財源確保のためにメンバーシップ制など、事業展開の中で、ずっと続けていくとすればどんな方法があるかを検討していく必要があるが、今回の経験をこれからの活動に生かしていこうというだけでも、協働事業の意味はある。
- ・ 役所も今回対象の公園関係の管理をしている団体に働きかけをして民間団体がこういう活動をしやすいような環境づくりをしていくなど、協働事業通じてそのような可能性を見出していただけたら良いと感じる。

3 議題

(1) 令和7年度協働事業提案制度概要（案）について

資料1に沿って事務局から説明

(質疑応答)

質問	回答
協働事業提案制度に採択された事業の実施後は、どのように事業継続することが考えられるか。	採択事業実施後の継続方法については主に2通りの方法がある。 ① 区の委託事業として継続する。 ② 団体が事業実施を通して力をつけ、独自の財源で事業を実施する。 また、このほか事業を通じ他団体等と連携し、協働事業内容とは異なる事業でも目的を達成のために形式を変えて実施継続する方法などもある。
提案は、大きくわけて、今後継続できそうな事業とチャレンジメインの事業と二つあると思うが、選考にあたってはどちらの優先順位が高いのか。	すでに課題化しているものの新たな解決手法の提案や、行政が解決すべき課題かまだ顕在化していないものへの提案など、内容は様々であるため、優先順位などはなく、事業実施期間の中でどれだけ意義がある提案になっているかに着眼していくものである。

(2) 令和7年度協働事業提案制度における「区から提起する課題」について

資料2に沿って事務局から説明。

- ・ 令和8年度(令和7年度協働事業提案制度に採択された場合の事業の実施年度)を含む区の策定計画について全庁調査を実施した結果について報告。

- 令和7年度「区から提起する課題」意向調査において、対象課題提起なし。提起なしの主な理由として、課題の規模が協働事業と合わない、計画スケジュールと合わない、過去に課題提起したが事業提案されなかった等が挙げられた。
※ 資料2は策定中計画を含む調査のため資料公開せず。

(質疑応答)

質問	回答
協働事業提案制度における「協働」する事業は、区がすでに実施している事業について当てはめたものなのか。	協働は、行政と民間が課題について一緒に考えながら、解決しようというものであり、協働事業提案制度では、すでに区が課題認識している事業への提案もあれば、行政がまだ認識していない課題についての提案も可能である。 この制度においては、課題化されていないものを、民間のチャレンジによって課題化していくということが、大きな目標である。
区として課題認識しているが、解決や事業提案には至らないという現状なのか。	協働事業提案制度の「区から提起する課題」においては、採択まで至っていない状況である。その理由として、そもそもその課題に対し提案する団体がいない、また提案されたとしても行政との課題のとらえ方や内容、スケジュール等がうまく合致しないなど様々な要因がある。
協働事業や協働の理解のための講座などはやっているか。	中間支援組織(ボランティア・地域貢献活動センター)で団体向けセミナーを行っており、協働事業に限らず助成金等申請にも生かせる企画書の書き方などのセミナーを開催することで団体活動の支援する取り組みを行っている。

(委員意見)

- 過去に提起された課題に対して提案はほとんどないため、役所側としても出しにくいところがあるように感じる。行政がやっている事業のルールが民間と合わず難しい部分がある。

- ・時代に合った課題や着目、また本当に一般的にそれが解決すべきかどうかみたいな認識があるかなど、状況のタイミングみたいなものがあるとは思いますが、区からは、民間にお願いしたい提案内容（課題）が出てきた方が、民間としてもやろうと考えていたものとの判断が付きやすい。来年度の「区から提起する課題」はないとのことだが、今後もしできれば挙げてもらおうとよいと思う。
- ・応募する団体も自由と言われても、意外と難しい部分があるため、区から提起する課題や過去の事例などを示してもらおうとわかりやすいのではないかと。区の事業がたくさんある中で、一緒に新たな協働みたいなものは結構難しい。
- ・過去に協働事業提案した際、一度は不採択になったが、その後関係所管と一緒に違う形で区と協働できる部分の話し合いを重ねた。民間の提案を実現するための相談窓口みたいなものがしっかりあるとよいと思う。
- ・今回の調査において、行政がなぜその協働に取り組みにくいのかというところは、表現などを整理して載せるとよいと思う。協働事業を提案しようと考えた際に踏まえる事前の情報としてあるとよいのではないかと。

(3) 区民協働推進会議の公開のあり方について

資料3に沿って事務局から説明

- ・会議録の公表について、区では会議録の形式については特段の規定はない。公表を開始して以降、会話形式の会議録であったが、読みにくいという意見もあり、質疑応答を主にしてまとめた形式に変更することとしたい。(委員了承)

4 報告事項

(1) 令和6年度ステップアップ事業補助金の状況について

資料4に沿って事務局から説明

<補足>

不採択団体へのマッチングコーディネート実績（例）

- ① マルシェ開催を企画した団体に対して、区内自動車関連会社が自社スペースで来店者に野菜などを販売するイベントを実施したい企業を紹介した。
- ② 外国との親善団体に対して、ボランティア・地域貢献活動センターのイベントにおいて、キッチンカーなどの出店を依頼した。
- ③ 音楽活動団体に対して、クリスマスコンサートをしたいという区内保育園を紹介し、それが好評だったため、その後、ほかでも希望する園での活動につながっている。

5 閉会